

《担当者名》○吉田晋(リハ) 本家寿洋(リハ) 田村至(リハ) 川添恵理子(看) 巻康弘(福) 武田涼子(リハ)
 澤田篤史(リハ) 佐藤一成(リハ) 岩瀬義昭(リハ) 鎌田樹寛(リハ) 坂上哲可(リハ)
 木浪智佳子(看) 内ヶ島伸也(看) 山田拓(看) 大友芳恵(福) 近藤尚也(福) 佐々木敏明(福)
 今井智子(リハ) 黒崎芳子(リハ) 前田秀彦(リハ) 大須賀祐亮(リハ)

【概要】

医学的な視点のみならず、対象者の心理的・社会的な視点にも配慮した医療が求められる中でチーム医療は必須の手段であり、より良いサービスを実践するためには多職種との有機的な連携と協業は欠かせない。本講義では、専門職種間の有機的な連携と協業についての基礎知識や理論、連携のためのマネジメントの実践についてそれぞれの専門的な立場から考察し、多職種連携が果たす役割や機能について学ぶ。また、学部学科をこえたグループワーク演習を通じ、コミュニケーションやディスカッションの実践力を身につける。

【学習目標】

医療や福祉の現場で他の専門職種と連携協業していくために、必要な知識や態度、コミュニケーション技術を身につける。

1. 多職種連携において患者、利用者を中心とした視点が持てる。
2. 多職種連携における各専門職の教育背景が異なることを配慮して他学科の学生と意見交換ができる。
3. 演習を通してグループ内で信頼関係を築ける。
4. 多職種連携におけるそれぞれの専門職の役割を理解し、説明できる。
5. 演習での議論を円滑に進めるために協力することができる。
6. 自分自身のふるまいを内省し、考えや価値観を再構築できる。

【学習内容】

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
1) 2	多職種連携の必要性	多職種連携が求められる背景とその重要性を理解し、多職種連携における各職種の役割および多職種連携のかたちを理解する。	吉田、本家、川添、巻、武田、澤田、佐藤、岩瀬、鎌田、坂上、木浪、内ヶ島、山田、大友、近藤、佐々木敏、今井、田村、黒崎、前田、大須賀
3) 4	多職種連携に必要な技術1	カンファレンス等、多職種で行う情報交換、意思決定の方法とディスカッションを円滑に進めていくためのファシリテーターの役割について学ぶ。	吉田、本家、川添、巻、武田、澤田、佐藤、岩瀬、鎌田、坂上、木浪、内ヶ島、山田、大友、近藤、佐々木敏、今井、田村、黒崎、前田、大須賀
5) 6	多職種連携に必要な技術2	多職種が連携することで生じるコンフリクトに対するマネジメント方法について学ぶ。	吉田、本家、川添、巻、武田、澤田、佐藤、岩瀬、鎌田、坂上、木浪、内ヶ島、山田、大友、近藤、佐々木敏、今井、田村、黒崎、前田、大須賀
7) 8	カンファレンスの進め方	演習で身につけたディスカッションのスキルを活用し、議事カンファレンスを通して議論の進め方を体験する。	吉田、本家、川添、巻、武田、澤田、佐藤、岩瀬、鎌田、坂上、木浪、内ヶ島、山田、大友、近藤、佐々木敏、今井、田村、黒崎、前田、大須賀
9	情報収集とアセスメント	各領域におけるアセスメントを基に、ICFにしたがって課題を分類する方法について演習を通じて学ぶ。	吉田、本家、川添、巻、武田、澤田、佐藤、岩瀬、鎌田、坂上、木浪、内ヶ島、山田、大友、近藤、佐々木敏、今井、田村、黒崎、前田、大須賀
10)	多職種連携演習	各職種の視点で課題を整理し、多職種に伝える方法について、現職の専門職を交えた演習を通して学ぶ。	吉田、本家、川添、巻、武田、澤田、佐藤、岩

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
11			瀬、鎌田、坂上、木浪、内ヶ島、山田、大友、近藤、佐々木敏、今井、田村、黒崎、前田、大須賀星野由利子（特別講師） 上田学（特別講師） 下倉賢士（特別講師）
12 ） 13	多職種連携演習	各職種から抽出された課題を共有し、チームで目標を統一するプロセスについて、現職の専門職を交えた演習を通して学ぶ。	吉田、本家、川添、巻、武田、澤田、佐藤、岩瀬、鎌田、坂上、木浪、内ヶ島、山田、大友、近藤、佐々木敏、今井、田村、黒崎、前田、大須賀星野由利子（特別講師） 上田学（特別講師） 下倉賢士（特別講師）
14 ） 15	多職種連携演習	チームでまとめた課題を解決し、目標を達成するために、それぞれの職種が担う役割について整理し、介入方法を立案するプロセスについて現職の専門職を交えた演習を通して学ぶ。	吉田、本家、川添、巻、武田、澤田、佐藤、岩瀬、鎌田、坂上、木浪、内ヶ島、山田、大友、近藤、佐々木敏、今井、田村、黒崎、前田、大須賀星野由利子（特別講師） 上田学（特別講師） 下倉賢士（特別講師）

【評価方法】

演習後のリフレクションシート100%

【備 考】

教科書：篠田道子 著 「多職種連携を高めるチームマネジメントの知識とスキル」 医学書院 2011年

参考書：埼玉県立大学 編 「IPWを学ぶ-利用者中心の保健医療福祉連携」 中央法規出版 2009年
北島政樹 著 「医療福祉をつなぐ関連職種連携-講義と実習にもとづく学習のすべて」 南江堂 2013年

その他： 隔週 限2コマ授業を原則とし、開講日は別途指示する。

【学習の準備】

基本的に学科をまたいだグループで行動する。予習復習や演習の準備等はグループで助け合いながら行うこと。

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP4、2 近代医療は「チーム医療」がとても重要です。各職種の専門性を活かした「チーム医療力」が病院、施設、地域等で実践する際の「臨床力」として特に重要になります。自身の職種と他の職種の専門性を理解し、尊重し合い、連携・協働することが、患者・利用者及び家族を支援する力になります。多職種連携論では、そのようなチーム医療力を発揮するための知識・技術・態度を身につけます。

【実務経験】

川添恵理子：看護師、保健師、訪問看護師、退院支援看護師、地域看護専門看護師、介護支援専門員

木浪智佳子：看護師

内ヶ島伸也：看護師

山田拓：看護師

巻 康弘：社会福祉士、認定社会福祉士(医療分野)、認定医療社会福祉士、介護支援専門員

佐々木敏明：ソーシャルワーカー

大友芳恵：社会福祉士

近藤尚也：社会福祉士

【実務経験を活かした教育内容】

看護師、社会福祉士等の実務経験を通じて得た知識・技術・態度等を活用し、実践的な教育を行う。